



### ササの仲間 (イネ科タケ亜科)

森林公園を散策し林床を見ると、ササ類が約半分の面積を覆っているのに気がきます。夏季には、足元でヤブサメやウグイスのさえずりや地鳴きの大きな声に驚かされます。今は、雪をのせ垂氷をたらし、しなり、朝光に照らされるとランタンのようにほわーっと灯ります。

ミヤマザサ、アズマザサ、シナノザサ(クマイザサ)、タキザワザサが自生していますが、これらと異なる個体が散見し見分けが課題です。本県のササ類調査は、一九二八年の牧野富太郎の来県を契機に一九二〇年代から一九六〇年代に盛んとなり六〇数種の新種発表がなされ、滝沢村内を基準産地とする種は、一二種あります。雑種の存在など本県のササ類の多様さが際立っています。

森の仲間とのかかわりはどうでしょう。びっしりと絡み合った地下茎や厚い落ち葉が水源涵養や土砂崩壊防止に貢献しています。が、他の植物の稚樹発生や定着を難しくしています。葉の裏の毛を支柱として産室の網巢を作るハダニ、託児所とするノウサギ、葉を巻いて産室を作るクモ、ササを吸汁するアブラムシを食べるシジミチョウ、無尽蔵の餌を確保できるニホンジカ、筍・食品包装・工芸に利用するヒト(竹箆教室開催)などを観察しています。民謡会津磐梯山に「笹に黄金がなりさがる」とあり、重要な救荒食糧であることがうかがえます。ただし、麦角となってしまう場合は、有毒なので注意が必要です。

ササ類はなぜ四十八年周期で一斉開花・結実・枯死を繰り返すのでしょうか。失敗は怖いことでしょうか。一斉開花の失敗リスク回避として、走り咲き・遅れ咲き・生残稈・再生稈が報告されています。一昨年、ネイチャーセンター付近で小面積開花がみられました。が、どのように動いていくのでしょうか。

あれ、葉っぱに切取線が・・・なぜ、そうして？



岩手県滝沢森林公園 野鳥観察の森ネイチャーセンター

休館日 毎週火曜日(祝日の場合は翌平日)、年末年始

〒020-0173 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字砂込1533-1 TEL・FAX 019-688-5522

[http://www.koiwai.co.jp/shiteikanri/takizawa\\_fp/nature\\_c/index.html](http://www.koiwai.co.jp/shiteikanri/takizawa_fp/nature_c/index.html)

## 観 察 記 録 ( 2 0 1 1 年 1 2 月 )

記録は、森林公園の野鳥観察の森で観察されたものです。  
野鳥は、鳴き声や上空を飛んでいるのを観察したのも含まれています。  
12月の調査日数は24日です。

### 野鳥

No.	種 類	上旬	中旬	下旬	月計
1	アオゲラ	○	○	○	5
2	アオサギ	○			1
3	アカゲラ	○	○	○	24
4	イカル			○	1
5	エナガ	○	○	○	19
6	カケス	○			2
7	カシラダカ			○	1
8	カルガモ			○	1
9	カワラヒワ			○	1
10	キジバト	○	○	○	17
11	コガラ		○		2
12	コゲラ	○	○	○	20
13	ゴジュウカラ	○	○	○	19
14	シジュウカラ	○	○	○	24
15	シメ	○	○	○	16
16	ジョウビタキ	○	○	○	8
17	スズメ	○	○	○	24
18	ツグミ	○	○	○	14
19	トビ	○		○	3
20	ノスリ	○			1
21	ハイタカ	○	○	○	5
22	ハシブトガラス	○	○	○	23
23	ハシボソガラス	○		○	2
24	ヒガラ	○	○	○	17
25	ヒヨドリ	○	○	○	23
26	ミソサザイ	○			2
27	ミヤマホオジロ			○	1
28	ヤマガラ	○	○	○	24

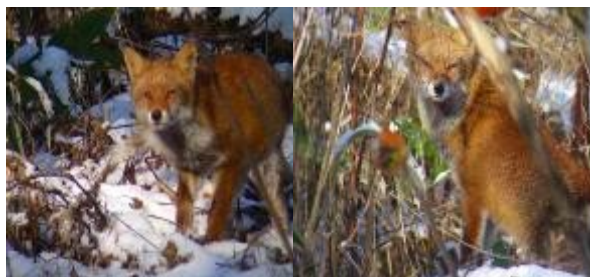
### 哺乳類

1	ホンDIGツネ	○	○	○	3
2	ニホンリス	○	○	○	23
3	イタチ			○	1



12月に観察された鳥は28種類でした。

12月に入り野鳥観察の森も本格的な雪のシーズンを迎えました。8日にはホンDIGツネが2頭、村道を渡って森林公園に入って行きました。



10日、ハイタカが狩りに現れ、柴に追い込まれた雀達は恐怖で動けずじっとしていました。この日の狩りは失敗に終わりました。

17日、ハリギリの大木の梢にツグミ20羽、無心にハリギリの果実をついばんでいました。

この冬初めての真冬日でした。ハリギリの果実は、野鳥たちに大人気、ヒヨドリ、キジバト、なんと、ハシブトガラスまで引き寄せてしまいます。



25日、ミヤマホウジロの雄がこの冬初めてやってきました。

クリスマス寒波襲来で、積雪量も急激に増えました。雪の朝、出勤時の楽しみは新雪に残された、フィールドサイン、動物たちの足跡を見る事です。リス、タヌキ、ウサギ、キツネ、テン、イタチ等、夜から早朝にかけての行動が、鮮明に雪の上に残されているからです。



# 2011年の観察記録

野鳥の月別観察日数

(年乾燥観察日数302日)

No.	種類 / 月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
1	アオゲラ	24	24	18	25	26	13	4	3		12	12	5	166
2	アオサギ						2					2	1	5
3	アオジ				2	5					4			11
4	アカゲラ	24	24	21	26	26	24	13	8	19	19	23	24	251
5	アカハラ				4							1		5
6	アトリ	2	5	8	6	1								22
7	アマツバメ				1									1
8	イカル				18	13	2	9	1	2		1		46
9	イスカ		2											2
10	ウグイス					1	2		1		3	3		10
11	ウソ	9	16	5	1									31
12	エゾビタキ									4	1			5
13	エゾムシクイ					2					2			4
14	エナガ	15	24	17	7	14				8	13	18	19	135
15	オオタカ		3		1					1	2			7
16	オオハクチョウ		7	11	5						2	1		26
17	オオルリ				1	2			3	16	6			28
18	オナガ				1									1
19	カケス	20	18			1				1	1	1	2	44
20	カシラダカ		1		9	3						1	1	15
21	カッコウ					2	3							5
22	カルガモ				1								1	2
23	カワラヒワ			1	19	20	26	27	26	5			1	125
24	キクイタダキ	4	1								1	3		9
25	キジバト		1	3	21	25	24	25	25	22	14	25	17	202
26	キセキレイ							2	4	3	1			10
27	キビタキ				2	22	25	26	17	25	6			123
28	キレンジャク	1												1
29	クロジ					1					2			3
30	クロツグミ				1	14	6							21
31	コガラ	2	13	8		1				1			2	27
32	コゲラ	18	23	15	26	26	19	21	24	20	24	23	20	259
33	コサメビタキ				3	4		1	18	1				27
34	ゴジュウカラ	11	22	21	26	25	23	11	19	9	5	7	19	198
35	コムクドリ				8	24	14							46
36	サメビタキ									1				1
37	サンコウチョウ					4			1	3				8
38	シジュウカラ	24	24	21	26	26	25	27	26	26	27	25	24	301
39	シメ	24	24	21	26	26	21	7	23	26	27	23	16	264
40	シヨウビタキ										2	8	8	18
41	シロハラ	1				2								3
42	スズメ	24	24	21	26	26	25	27	26	26	27	25	24	301
43	センダイムシクイ				13	2			3	3				21
44	ツグミ	21	20	4	2						1	5	14	67
45	ツツドリ					1								1
46	トビ	5	12	9	16	17	6	7	6	1	6	9	3	97
47	ノゴマ						1							1
48	ノスリ	3	2	1	4	2	2	1	2	2		4	1	24
49	ハイタカ	10	10	8	11	5	4		2	1	2	5	5	63
50	ハクセキレイ				5	5	14	4	1	2	2			33
51	ハシブトガラス	24	24	21	26	26	26	26	26	25	27	25	23	299
52	ハシボソガラス				3	6	1	1			6	7	2	26
53	ハヤブサ		1			1								2
54	ヒガラ	9	12	19	26	16	10	5			3	21	17	138
55	ヒバリ			1										1
56	ヒヨドリ	4	24	20	26	26	24	27	24	7	23	25	23	253
57	ヒンズイ				1									1
58	フクロウ						2							2
59	ベニマシコ	4	1	2										7
60	ホオジロ				1									1
61	ホトトギス							1						1
62	マヒワ		1	7	13	3					1			25
63	マミチャジナイ					1								1
64	ミソサザイ		4	6	5						1	3	2	21
65	ミヤマホオジロ											1	1	2
66	ムクドリ					2			2		2			6
67	メジロ				6	15	14	11	9	12	17	3		87
68	メボソムシクイ				1	4						1		6
69	モス	5			1			3	1	1	5	5		21
70	ヤブサメ						7		3	3				13
71	ヤマガラ	24	24	21	26	26	26	27	26	26	27	25	24	302
72	ミヤマガラス											1		1
	種数	25	30	26	34	49	32	23	29	31	38	32	28	72

一年間で観察された野鳥は72種類でした。ほぼ一年を通じて観察された鳥は14種類でした。

冬鳥の少なかった前年の冬にくらべて暮れから見られたアトリ、マヒワ、正月あけにキレンジャクなどの冬鳥の群れが頻繁に観察されて種数が増えました。留鳥のカラ類やキツツキ類の他にツグミ、ウソ、キクイタダキ、カケス、ベニマシコなどが積雪期に観察されました。特に2月下旬、300羽ほどのアトリの群れが観察窓のそばで地表近くを流れるように移動していく様子は独特の雰囲気でした。また2010年の大晦日に吹き荒れた暴風雪の影響で森林公園のアカマツなどが倒れるなどの被害がありましたが、枝といっしょに球果もたくさん落ちたため、3月末の雪解けのころは沢ぞいの斜面や散策路で、20羽前後のマヒワが地面に降りてついばんでいる姿が見られました。倒木で開けた空にオオタカやノスリも時々姿を見せました。

また積雪期にはキツネ、テンが餌場に頻繁に現れました。

3月の震災の影響なども心配されましたが、例年どおりに4月半ばコムクドリが餌場に現れて夏鳥たちの季節が始まりました。5月はじめにはキビタキ、オオルリ、センダイムシクイなども到着。春の進みが遅く寒い日が続いたため、ここから山への移動は遅くなったようでした。この季節は森のなかで残る果実も少なく、餌場では冬を越したヒヨドリ、アオゲラ、ツグミ、桜の開花を待つメジロ、到着したばかりのコムクドリが、給餌しているリンゴを巡って賑やかでした。

春の求愛の頃の賑やかさとうってかわり、6月の森は濃くなった緑のなかで静かです。近くで巣箱を利用しているシジュウカラ、ヤマガラが大きな青虫をくわえて雛へ届ける姿を何度も見かけました。半ばに、スズメの幼鳥が姿を現しはじめ数も増えて『スズメの学校』状態になり、その後、ヤマガラ、シジュウカラ、ゴジュウカラ、メジロなどが続きました。8月下旬からキビタキ、オオルリ、センダイムシクイ、コサメビタキ、サンコウチョウなど、夏鳥の幼鳥も水場へ頻繁に立ち寄っていきました。ここ数年増加傾向のシメの幼鳥は秋になっても少なめでした。

ミズキやハリギリ、アズキナシ、ナナカマド、ツルウメモドキなどの果実が豊作でした。食べごろとなった種類から順に野鳥が集まりにぎやかです。給餌場でも、この秋から野生の果実や種子を置いて野鳥との関係を知るきっかけになればと楽しみにしているのですが、樹上に自然の実りがまだ残っているあいだは地面までなかなか下りないようでした。



12/18定例森の観察会 自然の宝物見つけ隊

## 葉っぱのステンドグラス



外は雪景色でしたが、出来上がった作品を並べたとたんに、

ほわーと、窓に陽がさしこみました。そして、色とりどりのあたた

たかい光の色がうかびあがりました。

葉っぱの色や形の面白さに気がついたり、落葉を拾った季節の情景を思い出しながら楽しく作ったという感想をいただきました。

### ステンドグラス製作ボランティア募集中!

みなさんのあつたかデザインを仮設住宅に贈りませんか。(～1/15 無料 オリジナルポストカード進呈)

岩手の森はHOTするね 森を歩こう! 森で遊ぼう!

## NEW “ネイチャースキー” 1月29日(日) 2月12日(日) 3月11日(日)



純白のトレイルをめぐりましょう ・時間 10:00～12:00 ・対象 20名

・個人装備 XCスキー(持参のみ) かんじき(貸出あり) スノーシュー(貸出あり)  
・申込方法 希望日1週間前までに、装備の貸出希望を添えて 電話かFAXで

・ガイド 日本山岳ガイド協会認定山岳ガイド 日本テレマックススキー協会公認指導員  
日本ノルディックウオーキング協会公認インストラクター

“鳥と木の実と” 写真展 開催中 ネイチャーセンター 1Fホール

赤い鳥 小鳥 なぜなぜ赤い 赤い実をたべた



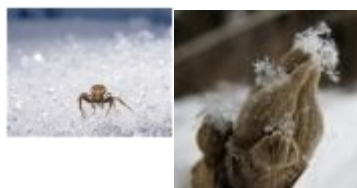
## “野鳥の木彫り(バードカービング)講習会”

1月14日(土) 3月10日(土) (移行 奇数月の第2土曜日)



・時間 10:00～15:00 ・場所 ネイチャーセンター 研修室  
・対象 小学校4年生以上の方 20名  
・参加料 新しい作品に挑戦の方1,000円 ・持参品 昼食(近くに食堂やコンビニはありません) ・服装 工作に適したもの  
・申込み方法 希望日前日までに、電話かFAXでネイチャーセンターまで

## 定例“森の観察会”(1月・2月の予定 毎月第三日曜日 10:00～12:00 (10:00ネイチャーセンター集合))



初心者の方、子供さんなど、どなたでも自由に参加どうぞ。申込不要。参加費無料

1月15日(日) 虫の目で見るネイチャーランド

2月19日(日) 植物の不思議探検隊

雪の中だけど光の春...生き物たちの様子を...さがしてみましよう

・内容 森林公園内の昆虫や植物を専門の指導員が案内します。

・服装 野外活動に適した服装でご参加下さい。

## “ネイチャーゲーム”で森を体感 雪で遊ぼう—どなたでも お気軽にどうぞ—



1月28日(土) 冬の森はどんな様子かな?

・講師 岩手県ネイチャーゲーム協会 もりおかネイチャーゲームの会  
・時間 10:00～12:00 協力 盛岡大学短期大学部幼児教育科  
・場所 ネイチャーセンター集合～森林公園・研修室(荒天)  
・服装 野外活動に適したもの ・参加料 無料  
・申込み方法 先着15名 前日までに、電話かFAXでネイチャーセンターまで

## “カンジキで歩いてみよう”



どうして雪の上でもリスやノウサギやテンは素早く移動できるの?

・日時 開館日の10:00～15:00(1回 1時間) ・個数 10個  
・場所 野鳥観察の森 ・ゴム長靴がベスト スtockがあるとベター